



📖ラストページまで駆け抜けて！

季節は秋本番となり、窓越しに見える七面山の木々の葉が、紅葉し始めました！秋が進むにつれて、きっとさらに色鮮やかな景色を見せてくれることでしょう。

さて、標題の言葉を見てピンときた方は、本好きな方かも知れません。これは、今年の読書週間の標語です。「読書週間」は、1947年（昭和22年）、終戦から2年後、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」という決意のもと、出版社や書店・公共図書館が力をあわせて、第1回が開催されたそうです。国民一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立への契機となることを願い続けられて、今年は第74回を迎えるそうです。ちなみに、南小の読書週間は11月6日（～11/30）から始まりました。読書へいざなう、たくさんの取り組みを行う予定です。

私も、振り返ってみると、読書に最もいそしんだ時期は小学校5年生の頃でした。当時は無謀にも、学校の図書館にある本、全部読んでやる…と、今思えばとてもできない目標を立て、友達と冊数を競い合って読んだ記憶があります。しかし徐々に、それは量から質へと変わり、興味のある本を中心にじっくり読み込むようになっていったことを覚えています。



充実した内容の図書集会

ように大きなスクリーンに挿絵や資料を映し出してくれて、それを見ながらお話を聞けるのは、昔の紙芝居のようで新鮮だったと思います。どの子も一生懸命に、目と耳と心を使って聴いていました。図書委員の読み方もとても上手で、スクリーン上のページをめくる係もタイミングよくやっていて、話の進行にとても合っていました。素晴らしい集会を開催してくれた図書委員の児童のみなさん、ありがとうございました。

また、夏休みに親子で取り組んでいただいた「ふれあい読書」ですが、司書の先生が素敵な本に仕立ててくださり、現在、各家庭に回覧されています。私も中身を読ませていただきましたが、保護者の皆様が、子どもと一緒に同じ本を読み、それを共有した温かな感想を丁寧に書いてくださってあり感動いたしました。ありがとうございました。子どもの成長につれ、このような機会は減ってくるでしょう。小学生時代のこの活動だけでも貴重ですので（私の実感として）、是非これからも親子で読書を楽しんでください。



司書の先生による読み聞かせ

南小の特色ある教育活動の一つに、「読書活動の充実」があります。本校の図書室は、一番日当たりの良い、特徴的な扇の形をした部屋に、約6000冊の蔵書を構えます。またそれだけでなく、児童が本を手に取り易いようにと、1階と2階には「ちっちゃな図書館」と名付けられた、読書スペースもあります。

このような環境面に加え、読書に親しむ機会は様々設定しており、10月27日には図書委員会による「図書集会」が開催されました。体育館で、スクリーンを使って「世界がもし100人の村だったら」の読み聞かせをしてくれました。同じ本を読むのでも、このよ



本になった『ふれあい読書』

